

2022（令和4）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492601420	事業の開始年月日	平成31年3月1日
		指定年月日	平成31年3月1日
法人名	株式会社エクシオジャパン		
事業所名	アクア上鶴間グループホーム		
所在地	( 252-0312 ) 神奈川県相模原市南区上鶴間1-12-15		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年11月28日	評価結果 市町村受理日	令和5年6月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設のご利用者様、職員、施設の周辺、近所の方の良さを感じます。皆様の自然の笑顔、優しさを感じる日々です。施設内での事です。優しさ、一生懸命さ、丁寧過ぎる対応が事業開始当初から続いていると感じました。一方、職員が一生懸命サービスとしてやってしまうことにより、ご利用者様の活躍すること、普段行っていたことを取りあげてしまう結果になってしまっているところもありました。2022年 アクア上鶴間グループホームの目標、アクア上鶴間グループホームが本来の家と同じよう過ぎしやすい施設に近づける。として掲げ、グループホームとは？をいつも皆で考えて、実践、結果、考えて、実践、結果とやっています。まだまだこれからでやりがいのある場所です。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年1月24日	評価機関 評価決定日	令和5年3月14日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急線「相模大野」駅、または、小田急江ノ島線「東林間」駅から徒歩約20分、あるいは「相模大野」駅から神奈中バス「中和田」バス停から3分程の所にあります。近くには買い物に便利な大型のショッピングセンターがあります。

<優れている点>

管理者は日常的に職員とコミュニケーションを図り、職員の自主性を尊重し、思いやりや気付き、意見や提案を受け入れ話し合い、事業所運営に反映しています。風通しの良い職場となるよう心がけ、職員は楽しくチームワーク良く、アットホームな雰囲気の中で利用者支援に努めています。居室はリビングを囲んで配置し、いつでも誰かの声が聞こえてくる家庭のような雰囲気があり、利用者は安心して暮らすことが出来ます。毎月の研修では、職員が交代で講師を務めて実施し、職員の資質向上の一助となっています。また、看護師が、日々の「バイタル・食事・服薬・水分・清潔 記録表」の内容を再確認し「個人記録」「排泄記録表」も見直しながら「支援経過記録」に写しかえ、利用者の健康管理を充実させています。

<工夫点>

「訪問診療連絡票」を活用し、次の往診日までの経過が医師に一目でわかるように工夫しています。排泄の内容も単に回数だけでなく、時間・色・量等細かく記入し利用者の健康管理に取り組んでいます。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	アクア上鶴間グループホーム
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日、曜日毎日に日替わり、社是、理念、社訓、行動指針を唱和継続実施、具体的な事例解決の際、活用し、共有し合える様つなげている。	管理者と職員は、法人の理念、社是等を共有し実践していますが、事業所独自の理念を策定していません。	地域密着型サービスの意義や役割を考慮し、事業所が目指すサービスのあり方や基本的な考え方を示した事業所独自の理念を策定し、職員と共有し実践されることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの前は、地域の方にも話し合いに参加していただいた。外や散歩等で、立ち話をしていたが、コロナで苦しんだ一年だった。	自治会には参加していますが、コロナ禍で地域との交流は難しい状況にあります。コロナ収束を見据えて地域との関係づくりを検討しています。	コロナ収束後を見据え、近所付き合いや地元の活動、地域住民、ボランティア団体等との連携、交流の取り組みを検討されることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方との関わりは、コロナの影響により困難な状況が続いている。自治会加入し、防災訓練の際等事前挨拶等行い、関わり合いを消さない様心がけている。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナの影響により、会議をおこなえていないことは、聞いている。	コロナ禍で運営推進会議は書面開催とし、2ヶ月に1回定期的に行っています。議事録は構成委員に郵送し、報告しています。事業所での新型コロナウイルスクラスター発生状況や、新型コロナウイルス感染拡大防止対策などについて説明し報告しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	コロナの影響により、アンケート、間接的な関わり、協力の取り組みが始まっている。	生活保護課とは連携を取り協力関係を築いています。ケースワーカーの定期的な来訪や電話、また事業所からも報告、相談し連携を取っています。介護認定更新手続や事故報告書、運営推進会議議事録の提出等を通じて連携し、協力関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置したり、年に一度勉強会を行い、身体拘束についての理解を深めるよう努めている。スタッフがフロアに必ず一人以上いることとし、混乱したり興奮する前の兆候が見られたときには傾聴したり、寄り添ったりして、安心や落ち着きに繋がるよう対応している。	身体拘束適正化委員会兼虐待防止委員会を3ヶ月ごとに実施すると共に研修を実施しています。身体拘束禁止の対象となる具体的な行為を周知し、職員の理解を深めています。また、スピーチロック等の事例検討を行い言葉遣いに注意を払い、身体拘束をしないケアに努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月のユニット会議にて、ご利用者様全員の対応について話し合い、対応の難しい事項がある場合は意見を出し合い、適切な対応に導けるよう確認し合っている。	虐待防止委員会や研修で虐待防止に関する理解や遵守に向けた取り組みを行っています。不適切ケアがあった場合は職員間で話し合い、また、管理者に報告するようにしています。管理者やリーダーは、日頃から職員の悩みや困りごとの相談に乗りストレス解消を図っています。	虐待防止の徹底に向けて、自己点検シート（チェックリスト）も活用されることが期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度のみ研修にて行っている。活用には至っていない現状。成年後見人制度は、施設内にて耳にする機会ある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	コロナ禍にて面会制限が続き、電話連絡が多くなり、ご家族様の不安、心配の声を多く聞かれた。十分な連携図っていく為に、窓越し、玄関越しでの面会、管理者とご家族様の面談を行い、理解、状態を把握してもらえよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍にて面会の問い合わせが多い。何とか、安全にお会い出来る様に工夫に努めている。ご家族様からの意見、要望を言いやすい環境、応えられる努力、実行に心がけている。	コロナ禍で家族の面会は中止していましたが、家族から面会の再開要請が多くあり「窓越し、パーテーション越し面会」を検討、実施し家族の要望に応じています。また、家族からのAED（自動体外式除細動器）設置の要望により、玄関ホールに設置しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングではたくさんの意見が出ている。同じ方向に進むには、お互い意見を聴くことが大切だと話し合っている。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図っています。毎月のフロア会議で職員の意見や提案について協議し、運営に反映しています。職員の意見で、フロア業務の見直しや明確化、タイムスケジュールの変更等を行い業務改善に繋げています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者が掲げる、言葉にする仕事への考え方、想いを理解、実行しようと努めている。仕事が楽しくできるように。残業、サービス残業しない仕事環境作り。	人事考課や職員面談で就業意欲の向上を図っています。管理者は職員の「待遇改善」や「楽しく、笑顔が絶えない事業所づくり」に努めています。初任者研修を始めとした職員の資格取得の支援を行っています。休憩室、職員ロッカーを整備し、就業環境を整備しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍で本社から来ることは控えているが、資格を取るための研修は各職員に声がかかり、資格取得の支援を行っている。	事業所内研修年間計画に基づき、毎月職員研修を実施し、受講者は研修報告書を提出しています。未受講者には研修資料を配布しています。外部研修受講時は受講費用の補助があります。新入職員は、法人研修後、事業所内でベテラン職員が付きOJTを実施し育成しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍にて、交流自粛している現状です。本社研修での系列施設の状況、新規入職者からの情報を活かして、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時の情報を共有し、職員同士で不安なことを話し合い、ご家族様にもお話を聴きながら、少しでも居心地の良い支援を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	相談されるご家族様の立場を理解し、話をしっかりと聴き受け止めて、事業所としてどのような対応ができるか検討する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、ご利用者様やご家族様の要望をもとに、何が必要かを見極める。相談を繰り返す中で、信頼関係を築きながら、必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活環境を把握し、ご利用者様の思いに寄り添い、苦しみ、不安、喜びを知ること努め、暮らしの中で共に支え合える関係づくりに留意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員はご家族様の思いに寄り添いながら情報共有に努め、ご利用者様と一緒に支えるためにご家族様と同じような思いで支援していることを伝えている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で今迄の関係継続の支援が困難な日々が続いている。ご家族様に対しては、窓越しでの面会を実施している。	コロナ禍で馴染みの人の訪問はなく、馴染みの場所への訪問も中止しているのが現状です。利用者で電話使用の希望があれば、居室で他人を気にせず、ゆっくり話せるよう支援しています。職員は馴染みの人や場との関係継続の大切さを理解しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	他のご利用者様の気持ちを引き上げてくれる場面を作る等、ご利用者様同士の関係をや個性をうまく活かす配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の事業所に移られた場合、アセスメント、ケアプランや支援状況等を手渡すと共に情報交換を行い、馴染みの職員が機会を作り訪問に行く等、リロケーションダメージを最小限にする。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様がどこでどのように暮らしたいか、何をしたいか、誰に会いたいかを理解するためのアプローチを一つひとつ丁寧に行っている。	利用者の思いや意向を推測で判断しないように心掛けています。職員は日々の行動や表情から、一人ひとりの思いを汲み取り把握しようと努めています。意思疎通の困難な利用者には、家族から情報を得、どのように暮らすことが最良なのか検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ライフスタイル、個性や価値観等を把握したり、ご家族様の許可を得ながらご利用者様の昔をよく知っている親類や友人、近所の方たち等にも丁寧に働きかけて、過去の具体的な情報をもらえるようにする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活のリズム、食事や睡眠、排泄時間、生活習慣、一日の中でどのような体調の変化があるかを把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者様の会話に対応できることから進んで実行する。ご利用者様に感謝の言葉を伝えることでコミュニケーションが取れ、自信を持っていただき喜んで行う。	利用者の変化に応じて介護計画を見直しています。個人記録表に短期目標の支援内容が設定され、職員は利用者の生活面での気づきを記入しケアプランの作成に活用しています。フロア会議で話し合った意見やアイデアを基に利用者主体のケアプランを作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気が付いたことは、支援記録や連絡帳に記入している。職員同士の報告・連絡・相談でご利用者様の変化に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ニーズに合わせての面会、コロナ禍での面会のご家族様と窓越しで対面を実行している。レクリエーションは、ご利用者様全員で行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	二ヶ月に一度、訪問理美容を実施している。他にも、ご利用者様と後継人様との面談、消防訓練の実施、毎食前の口腔体操の実施、安全に食事ができるよう見守りや介助等、実行している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご利用者様、ご家族様が希望する医院に往診していただくよう努めている。ご利用者様の変化を往診記録に記入し、外来受診時は施設長が同行している。	2ヶ所の協力医が定期的に訪問し利用者の健康管理を行っています。入居前のかかりつけ医の往診を継続している利用者もいます。歯科医は週1回訪問し利用者の口腔ケアを行っています。外部医療機関への通院は家族と協力し管理者が同行することもあります。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	異変に気付いた時には、ただちに各ご利用者様の個人記録に記入をしている。またそれを元に提携している往診医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療職に上手に情報を伝えるため、小さなこともFAX等使い、報告を行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者様の変化をご家族様にお伝えし、職員で話し合いあい共有している。	入居時に看取りや重度化した場合の説明をし、同意を得ています。看取りについての研修を行い、職員は重度化や終末期の対応を身につけています。医療と連携体制をとり、家族の意向を再度確認しながら看取り支援に取り組んだ実績があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内部による定期的な研修での学習や、緊急対応マニュアルを常時備えるようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難通路付近には、物を置かないようにしている。また、緊急避難場所の地図を玄関に貼り出し、すぐに確認できるようにしている。	年2回利用者と共に、日中と夜間の災害を想定し避難訓練を行っています。「緊急時対策マニュアル」を作成し具体的な避難誘導策を決めています。職員はいざという時に慌てず避難誘導が出来るように取り組んでいます。消防用設備点検も年2回行っています。	非常食や水、災害用の備品などの備蓄場所の再検討と備蓄品リストの整備が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	長い人生歩んできた大先輩として敬い、常にご利用者様個人の人格を尊重する気持ちで対応している。	年長者として敬意を払い、利用者の人格を尊重した支援を行っています。脱衣所・トイレでは、カーテンや入口のドアを閉めるなどしてプライバシー保護に努めています。居室に入る時には必ず声をかけ、許可を貰ってから入るなどの配慮をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様の思いや希望を受け止め、一日の生活に強弱があり、楽しく過ごしていただけるように心がけ対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者様一人ひとりの認知度、行動パターンが違うので、今何を発信したいのかよく傾聴して希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容支援が弱いと感じることが多かった。フロア会議で議題に上がり、少しずつ支援できてきている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員が全て行う状況から、今では、積極的にご利用者様のキッチン参加、活躍できる状況ができてきている。	2ヶ所の業者から食材を調達し、調理や後片付けも利用者と職員が一緒に行っています。法人の農園から届けられる新鮮な野菜を食材に採り入れています。誕生日や敬老の日には利用者要望のカレーやお好み焼きのメニューを取り入れ、食欲を高めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々食事量、水分補給を記録しています。食事は、個々の状態に応じて、医師、看護師に相談して共有しています。水分補給は、脱水状態になりやすいので、こまめな水分補給に心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	先ずはご利用者様自身で行えるように促し支援、出来ない部分のカバー、歯科往診による個別指導をうけ日々行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	月のパット等使用量が上がっていた頃会議、議題にて話し合いを行い、トイレ誘導時間、誘い方、お声がけ方の出来てる職員の真似をして少しずつ改善傾向になっている。	「排泄記録表」で排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っています。自立に向け、行きたいときにトイレでの排泄が出来るように支援しています。排泄の失敗やおむつの使用に対しても、利用者の自尊心を傷つけないように配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	外への散歩等が思うように出来ない状況が続いている。お薬に頼ることは多い。体操時間を増やしたり、体操内容に工夫している。（足踏み回数を増やしたり）		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	午前中の入浴が基本でしたが、午前中の脱衣場の温度が非常に低く、ヒートショックを起ししやすい環境改善に努めている。	午前・午後、利用者の習慣や希望を尊重し週2回は入浴できるようにしています。入浴を拒む利用者にも無理強いをすることなく、入浴できるように声掛けの工夫をしています。リフト浴の設備があり、車いすや重度の利用者も、ゆっくり浴槽に浸かる事が出来ます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	基本的には就寝時間は自由ですが、見当識障害で不安なご利用者様へ時間をお知らせ、伝えることを大切にして眠りへと誘導しています。安眠への環境整備も朝礼等や事例解決にて行えるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご利用者様の薬情報をファイルにして整理し、全職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は職員二人でダブルチェックし、間違いのないよう確認し、服薬は飲み込むところまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	各々の能力に応じて家事を行っていたり、ご利用者様のご希望を聞き、特別楽しめる日を作っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご利用者様本人や、ご家族様の意見を聞き、希望に沿うよう外出の支援をしている。現在はコロナの影響で外出自体を控えている。	気分転換を図るため事業所の周辺を散歩や、近くのスーパーマーケットやホームセンターに菓子や花を買いに行っています。法人内の各事業所対抗のイベント「エクシオオリンピック」や法人へのドライブを行い、コロナ禍でも出来る支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	近くのスーパーへ買い物等のレクリエーションを行っていたが、現在はコロナの影響で控えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	積極的に促すことはないが、希望があれば支援している。電話は個室に入り、他人を気にせずゆっくり話ができるよう環境を作っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロア等の模様替えなど定期的に行い、季節感や明るいイメージを心がけている。トイレ等水回りに関する場所は、定期的に除菌を行い清潔に保っている。	リビングに面した各居室の入り口の、壁には利用者を書いた「今年の目標」を飾っています。空気清浄器と加湿器を設置し、換気や室温等に留意し居心地よい環境作りを心がけています。テレビやテーブルも導線よく配置し、利用者が掃除機をかけるなど清潔感のあるフロアとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者様の居室には職員でも気軽に入ることはせず、必ず声をかけ許可をいただいている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にて排泄介助を行った場合は、リネンの整理整頓や換気塔心がけている。また、レクリエーション等で作成したブリザードフラワーなど、各々の居室に飾っている。	居室はエアコン・ベッド・クローゼット・洗面台が備付けとなっています。テレビやタンスなど使い慣れたものを持ち込み、利用者は居心地よく過ごしています。職員は環境整備を心掛け、利用者と相談しながら、寝具の入れ替えや模様替えを行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室に表札をつけたり、トイレにはわかりやすいマークをつけている。会議やミーティングで環境の問題点等を話し合い、改善したり見直したりと工夫している。		

事業所名	アクア上鶴間グループホーム
ユニット名	2ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日、曜日毎に日替わりで社是・理念・社訓・行動指針を唱和し、話し合う時間を共有している。施設内の会議や、フロア毎のミーティングを実施し、何ができるか理念を統一している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの影響で、今現在はご利用者様の外の散歩も自粛しており、地域との交流が難しい状況である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方との交流は、コロナの影響で企画も困難な状況にある。今後の課題として受け止めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナの影響で、自粛している状況にある。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	コロナの影響により、アンケート、間接的な関わり、協力の取組みが始まっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	より良いケアになるよう、フロア会議やカンファレンスで話し合われている。ご利用者様の気持ち等を尊重し、行動を制限しないケアを実践している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修を行い、知識や意識を高めている。職員間でもお互い意見や注意ができるような関係作りを心がけ、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度に関しては、研修や職員個々の学習で知識はあるが、活用には至っていない。管理者とご家族様の間では話し合いがもたれている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	コロナ禍にて面会制限が続き、電話連絡が多くなり、ご家族様の不安、心配の声を多く聞かれた。十分な連携図っていく為に、窓越し、玄関越しでの面会、管理者とご家族様の面談を行い、理解、状態を少しでも把握してもらえよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様や、ご家族様は面会の際にも、随時要望を伺えるような雰囲気作りを心がけている。職員が聞いた意見等は、すぐに管理者へと報告される。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度ミーティングを開いたり、他にも気付いた時等、日々の中で意見を出せる機会を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者、職員双方意見を出し努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	チームの一員として研修・会議等に参加を促し、勉強する姿勢のある者には見合った研修を薦める。研修内容等は報告書を閲覧可能にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	立場が異なるため、なかなかできていない現状がある。コロナの影響で交流会は行われていないが、研修を通して交流を行う。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用者様の言葉に耳を傾けながら、安心して過ごせる環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様への理解に努め、言葉や心に耳を傾けながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面接や内覧を利用し、ご利用者様、ご家族様の希望をしっかりと聞くことに努める。希望と実情が異なっている場合は、他のサービス利用も含めた対応を考慮する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常に感謝の気持ちと尊重を忘れずに接するよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	大切なことと認識し、ご家族様の気持ちに寄り添うよう努める。ご利用者様とご家族様の橋渡しをし、共にご利用者様を支え合う関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者様の気持ちや言葉を受け止め、ご家族様の意向を踏まえたくえで支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士の関係を把握し、孤立や争いが無いよう、良い関係が築けるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	経過状況を見守りながら、相談には速やかに応じている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりに合ったサービスの提供をしている。カンファレンス等で情報を共有し、希望に合ったサービスの実施に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者様、ご家族様から生活環境を伺い、ご利用者様らしく生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様の生活を通して、心身状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランに沿ったサービスを実施している。モニタリングを通して関連機関に報告し、現状に合ったサービスの提供に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録・支援記録を活用し、職員間の情報の共有に努めている。変化等あった際には、関連機関に連絡、相談を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	必要なサービスが提供できるように、支援の見直しや個別の対応に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナの影響で、地域の行事に参加することができない。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期往診により、身体面の健康管理に努めている。異変があった際には、かかりつけ医と連絡を取り合い、指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週一で訪問看護に入ってもらっている。看護職員と介護職員は、ノートを介して情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は支援情報を医療機関に提供し、ご家族と情報交換（回復状況等）を行い、退院時に備える。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者様、ご家族様の意向を最優先に取り入れ、安心した終末期を送れるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に勉強会を実施し、対応力を身につけている。救急搬送時の手順を、定期的に再確認するようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業所の訓練は定期的実施しているが、コロナの影響で、地域住民と連携した訓練はできていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者様のお気持ちを第一に考え、職員間で情報を共有し、適切な支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様一人ひとりが自己決定できるような場面作りをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者様の体調に配慮し、そのペースに合わせ支援しているが、こちら側から提案する場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご利用者様の好みを把握し、そのらしさを保てるよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者様と食事の準備や片付けを一緒に行ったり、食前にメニューをしっかりと伝え、食事への関心を引き出すよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士の献立に従い提供している。食事量、水分摂取量は全て記録し、ご利用者様の好みを把握した上で量や栄養バランスを調整している。おやつや飲み物を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自身でできる方は声掛けをし傍で見守り、できない方には職員が付き添い毎食後ケアしている。歯ブラシ、スポンジ等、ご利用者様によって使い分けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を利用し、定期的な声掛けや誘導を行っている。必要な方には職員が付き添い介助し、トイレで排泄できるよう支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	十分な水分補給や、繊維質の多い食事を提供している。コロナの影響で散歩の機会がないため、毎日のラジオ体操や身体を動かす娯楽（風船バレー等）を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	音楽を流したり、会話したりと一人ひとりの入浴の楽しみ方を理解し、環境を作っている。入浴を嫌がる方には無理強いせず、翌日にしたり時間をずらしたりして対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間、日中の活動状況、様子等を職員間で把握し、一人ひとりの一日のリズムを作っていく支援をしている。寝つけない時でも、会話や温かい飲み物等で安心できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの服薬ファイルを作成し、職員がいつでも見れるようになっている。会議や掲示等で、薬の効果や変更状況にもすぐ反映できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	できること、やりたいことを理解し、仕事として頼り、感謝を言葉で伝えている。行事やイベントを利用し、ご利用者様と相談しながら楽しみを見つけている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナの影響で外出や外食は無い状況に近いが、希望する方には施設周辺の散歩や外気浴等行っている。歩行が困難な方でも車椅子等を利用し、外へ出られるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナの影響で買い物に出る機会はないが、希望に応じてお財布や少額の金銭をご自身で管理していただいている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	積極的に促すことはないが、希望があれば支援している。電話は個室に入り、他人を気にせずゆっくり話ができるよう環境を作っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	整理・整頓・清潔を心がけ、不快にならない空間を作っている。季節や行事を大切にし、ご利用者様と共に飾りつけを作り、配置する等工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	椅子にご利用者様の名前を貼り、「自分の場所、いて良い場所」と安心感を得ていただいている。食席は決まっているが、椅子は自由に移動し、交流や一人で過ごすことも可能になっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者様とご家族様が用意された家具や雑貨等を、自宅と同じように、まやは居心地良いように配置していただいている。生活の中でご利用者様が不便・不快に思う部分は、ご家族様と相談し変更している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室に表札をつけたり、トイレにはわかりやすいマークをつけている。会議やミーティングで環境の問題点等を話し合い、改善したり見直したりと工夫している。		

2022年度

アクア上鶴間グループホーム  
作成日： 2023年 6月 1日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	上鶴間グループホームの基本理念がない。	2022年度迄の経験から事業所理念を作成する。	地域密着型サービス、役割、活動を挙げる。現況から方向を定める。難しくなく出来るような内容にする。	2ヶ月
2	2	コロナ禍にて運営推進会議が対面的に行えていない。	2023年度対面的に行えるように努める。	他の事業所等の状況、情報収集行なう。安全に行えるように環境整える。	2ヶ月
3	7	身体拘束、虐待につながらないような環境整備。	就労環境の安定化、わかりやすい研修内容等学習環境を整える。	働く環境確認、修正、言葉づかい、身体拘束、虐待防止の学習内容にの充実化。	12ヶ月
4	35	非常食、水、備蓄専用の保管場所がない。	わかりやすいように区分けを行なう。	災害用の場所を確保。区分けを行なう。目印の取り付け。	4ヶ月
5	38	まだまだ本人が出来る事を行える環境ではない。	出来ることはやっってもら環境に近づける。	家事を中心として、出来ることを毎日行い、日常化にしていく。	12ヶ月